

1. 魚介類調査結果の概要

1. 魚介類調査結果の概要

(1) 確認種数（資料II.1.1、資料II.1.2）

今回とりまとめを行った47河川で確認された魚類は18目61科229種、エビ・カニ・貝類は13目46科123種です。

魚類の確認種数が多かった一級河川は中部地方の矢作川の77種、近畿地方の淀川の70種、東北地方の阿武隈川の67種等、二級河川は中国地方の島田川の65種、関東地方の夷隅川の63種、四国地方の松田川の53種等でした。

エビ・カニ・貝類の確認種数が多かった一級河川は近畿地方の淀川の34種、中部地方の矢作川の29種、九州地方の球磨川と川内川の28種等、二級河川は中国地方の島田川の43種、四国地方の松田川の29種、関東地方の夷隅川の26種等でした。

(2) 特定種の確認種数（資料II.1.3、資料II.1.4）

今回とりまとめを行った47河川で確認された特定種は、魚類ではレッドリスト絶滅危惧ⅠB類のイチモンジタナゴやゼニタナゴ等38種、エビ・カニ・貝類では、レッドリスト絶滅危惧Ⅰ類のナカセコカワニナ、絶滅危惧Ⅱ類のオバエボシガイやカワシンジュガイ等15種でした。魚類の特定種の確認種数が多かった河川は北海道地方の釧路川、中部地方の矢作川の9種、北陸地方の加治川の8種等でした。エビ・カニ・貝類の特定種の確認種数が多かった河川は、近畿地方の淀川の5種等でした。

(注) 特定種の選定基準について

本資料においては、次のものを特定種としています。

- ・「文化財保護法」の特別天然記念物及び天然記念物
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種及び緊急指定種
- ・環境庁編（1999）「レッドリスト」掲載種
- ・環境庁編（1991）「日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—」掲載種
- ・環境庁編（1976）「緑の国勢調査（第1回自然環境保全調査）」における「すぐれた自然の調査」主要野生動物一覧の掲載種
- ・環境庁編（1982）「緑の国勢調査（第2回自然環境保全基礎調査）」における「日本の重要な淡水魚類」環境庁指定種

(3) 外来種の確認種数（資料II.1.5、資料II.1.6）

今回とりまとめを行った47河川で確認された外来種は、魚類ではブラックバス（オオクチバス）、ブルーギル、コクチバス等の14種、エビ・カニ・貝類ではスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）、アメリカザリガニ等の8種でした。

(注) 外来種の選定基準について

本資料における外来種は、おおよそ明治以降に侵入したと考えられる国外由来の動植物とし、侵入後に日本で定着した種であるか否かは、判断が困難な種があるため考慮していません。また、外来種の選定は、資料I.5（42～43ページ）に示した文献及び学識経験者の意見により行っています。

(4) 捕獲個体数の多い魚類一覧 (資料II.1.7)

確認状況の概要は、6ページに示すとおりです。

(5) 琵琶湖・淀川水系の魚類、北海道地方在来の魚類の確認された地域 (資料II.1.8)

確認状況の概要は、6～7ページに示すとおりです。

(6) ブラックバス (オオクチバス)、ブルーギル、コクチバスの確認された地域 (資料II.1.8)

確認状況の概要は、15～16ページに示すとおりです。

(7) カダヤシ、メダカの確認された地域 (資料II.1.8)

確認状況の概要は、16ページに示すとおりです。

(8) 琵琶湖・淀川水系の魚類、北海道地方在来の魚類ブラックバス (オオクチバス)、ブルーギル、コクチバス、カダヤシ、メダカの確認状況の経年比較 (資料II.1.9)

確認状況の概要は、6～7、15～16ページに示すとおりです。